

国語科学習指導案

令和4年〇月〇日(〇)第〇校時 2年〇組(2年〇組教室)指導者 〇〇 〇〇

1 単元(題材)名

モアイは語る—地球の未来

2 教材観

(1) 学習指導要領上の位置づけ

【知識及び技能】

意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

〈(2) 情報の扱い方に関する事項ア〉

【思考力・判断力・表現力】

観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

〈C読むこと(1)エ〉

【主体的に学習に取り組む態度】

言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に
して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 単元(題材)の価値

本教材「モアイは語る—地球の未来」は序論で四つの問いを提示し、本論でそれら一つ一つの問いに対して根拠を示しながら答えていく。その上で、結論ではイースター島の問題から地球の問題へと発展させ、筆者自らの主張を述べている。

本教材は問い・根拠・主張の結びつきがわかりやすいため、(2)情報の扱い方に関する事項アについて、考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方について理解するのに、ふさわしい単元である。

さらに、筆者は関連する知識や事実を列挙するだけではなく、根拠として自分の主張と結びつけるように文章を記述することで、文章の構成や論理を展開している。生徒は、「モアイは語る—地球の未来」という教材文について、筆者の主張とその考えを支える根拠との関連性について観点を定めて読み取っていく。このことから、本単元で中心的に扱うことになる指導事項〈C読むこと(1)エ〉について、学習するのに適切な教材であると考えられる。

(3) 今後の学習への活用

意見と根拠のつながりや論理の展開について理解を深めることで、次の単元である「根拠の適切さを考えて書こう」において、より説得力のある文章を書く学習へ活用していく。また、三年生で学習する論説文「人口知能との未来」「人間と人工知能と創造性」において、文章を批判的に読み、これからの社会の在り方に対する自分の意見をもつ学習への活用を図る。

3 生徒の実態及び指導方針(〇名)

(1) 既習の学習内容や活動

1 学期に学習した教材文「クマゼミ増加の原因を探る」では、仮説の立て方や述べる順序(C(1)ア)、文章と図表とのつながり(C(1)ウ)や題名と本文の関連に焦点を当て、記述を基に筆者の説明の工夫を考えることで、文章の構造を捉えることができた。

(2) 本単元に関わる生徒の実態

略

(3) 指導方針

- ・自分の考えを形成する場面で **Google Jamboard** を活用して考えを記述させてから話し合いを行うことで、意見の円滑な共有や議論の活性化を図る。
- ・各時間の事前準備として家庭学習でオンライン動画教材の動画等を活用して、次時の学習内容に触れさせておくことで、授業時間内での対話時間を増やし、文章の構成や論理の展開への理解を深める。
- ・必要に応じて、既習の教科書 p 133 の「意見の説得力を高めるには」の学習を振り返らせて共有することで、筆者の説得力のたせ方や根拠の適切さについて読み取れるようにする。
- ・学習内容の定着の確認するため、オンライン動画教材の共通テストを活用する。

4 研修主題とのかかわり

ICT を活用して単元の中に家庭学習を組み込み、授業中の対話の時間を確保することで、主体的に授業に取り組む姿勢をはぐくむとともに、自らの学習を調整しようとする態度を育てる。

5 単元(題材)の目標

- (1)意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能(2)ア]
- (2)観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開について考えることができる。
[C読む(1)エ]
- (3)言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとしている。
[学びに向かう力、人間性等]

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開について考えている。 C(1)エ	粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。

7 指導計画(全5時間予定)

○:記録に残す評価 ・:指導に生かす評価

学習過程	時間	○ねらい ・学習活動	主な指導上の留意点	評価の観点
つかむ	家庭	・本文を読み、「筆者の一番伝えたいことは何か」について考えをまとめる。	・前時の終末に課題について説明し、Google フォームで作成した回答を教員機へ提出できるようにする。	

	1	<p>○単元の課題をつかみ、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が筆者の主張について初読でとらえた内容を確認する。 確認した結果をもとに単元の課題を設定する。 文章全体を序論・本論・結論に分ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>単元の課題 文章の構成や論理の展開に着目して読み、筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちが読み取ったことを Google フォームで集約したデータから AI テキストマイニングを使って視覚化し、現時点で読み取った筆者の主張について全体で共有した後、単元の課題を考える。 まずは個人で取り組ませ、その後、どこで分けたか、なぜそこで分けたのかをほかの生徒と確認させる。 序論の問いの内容と、結論の筆者の主張のズレに気付かせる。 今回は序論の問いとそれに対応する答えと根拠をまとめていくことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体態（振り返りシート、発言）
	2	<p>○文章の構成に着目し、内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者が序論で示している問いと、それに対する答え、また、答えの根拠として挙げられている事実を要約し、表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に確認した文章全体の構成を、クラス全体で振り返る。 文章の構成に着目し、内容を捉える場面では、次時の活動につながるように、筆者の問いと答え、根拠を表にまとめる。 グループで表を完成させる。 	
追究する	家庭	<ul style="list-style-type: none"> 本論で筆者が示した4つの事例について、それぞれの根拠を示した理由(根拠と意見をつなぐ考え)を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン動画教材の動画②(1:20～)と③(1:35～)を視聴して、動画の内容を参考に考えをまとめるよう助言する。 	
	3	<p>○序論の問いに対する答えを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本論が4つに分かれることを確認する。 前時でまとめた表をもとに、Google Jamboardをつかって、それぞれの問いと答え、根拠を確かめ、ワークシートにまとめる。 本論1と結論で述べている筆者の考えについて、共通点を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートに記入する。 本論のまとめりごとに、問いと答えの関係を考えやすくするため、色傍線で可視化させる。 教科書 p132、133の「根拠の吟味」を確認し、説得力を高める適切な根拠の条件のどれに当てはまるかを考えさせる。 本論2～4についても同様に、家庭で考えるよう伝える。 	<p>○知・技(2)ア (ワークシート・発言)</p>
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> 本論2～4と結論を比較し、イースター島と地球の共通点を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 本論と結論を読み、イースター島と地球の共通点を見つけ、教科書に同じ色で線を引くことを確認しておく。 	

	4 本時	<p>○筆者の論理の展開について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、事前に考えていたイースター島と地球との共通点を Google Jamboard にまとめていく。 ・筆者はなぜ、イースター島の事例を示したのかを考える。 ・筆者の根拠(本論)が適切かを考え、根拠の重要性について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時に確認した、序論と結論(問いと筆者の主張)のズレを想起させる。 ・教科書と Google Jamboard を併用して、本論と結論の共通点について可視化し、比較しやすくする。 ・結論の筆者の主張の根拠はどの記述かについて考えさせる事で、イースター島の事例を提示した意味を考えさせる。 ・教科書 p 133 の条件と照らし合わせながら、筆者の論理の展開から根拠の重要性を考えさせる。 	<p>○思判表 Cエ (Google Jamboard、発言)</p>
まとめる	5	<p>○筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モアイ」は何を語っているのか、「モアイ」「歴史」「未来」の三つの言葉を使って、端的に説明する。 ・筆者の主張に対する自分の考えを、自分の知識や体験と重ねて 200 字程度で Google ドキュメントにまとめる。(ICT) <p>○学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が主張していることを確認し、主張に対する自分の考えについてマッピングを使ってまとめさせる。 ・「限られた資源を守るための方策を考えるべきだ」という意見を否定することは難しいので、どのような方策が考えられるか、具体策を挙げさせ共有していく。 ・今までの学習を想起させ、論理の展開を捉えるとき、どのような点に着目すると効果的であったか、自分の言葉で表現させる。 	<p>○主体態 (振り返りシート、発言)</p>

8 本時 (本時は全5時間中の4時間目)

(1)ねらい

筆者の主張とその根拠の関連性について話し合う活動を通して、文章の構成や論理の展開について読み取ることができる。

(2)授業改善の視点

筆者が示した根拠について家庭で一度考えた上で、Google Jamboard を用いて生徒の考えを可視化したことは、文章の構成や論理の展開について考えさせる上で効果的であったか。

(3)人権教育の視点

他者の意見を受け入れ、互いを尊重しながら協力して話し合いをすることができたか。

(4)準備・資料

教員：教科書 ワークシート タブレット プロジェクター スクリーン
 生徒：教科書 ワークシート タブレット

(5) 展開

学習活動 ・予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する生徒への支援 ◇評価
<p>○前時までの学習内容を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて：なぜ、筆者はイースター島の事例を示したのか、意見と根拠の関係に着目して考える。</p> </div>	5分	<p>◎学習内容の振り返りに生かすために、前時のプリントと Google Jamboard を利用する。</p>
<p>○教科書にまとめてきた本論のイースター島の事例と地球の現状の共通点を、グループごとに Google Jamboard にまとめる。</p>	10分	<p>◎話し合いに円滑に参加することができるように、線を引いてきたところを確認し合うように伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスでの意見を共有するために、グループごとに発表を行う。 ・全員が手元で見られるように、Google Meet を使って発表グループの Google Jamboard を共有する。
<p>○序論の問いと結論のずれに着目し、筆者はなぜイースター島の事例を示したのか、グループで考える。</p> <p><発表></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説得力をもたせるためだと思う。 ・イースター島の話をする事で想像しやすくなり、読者を納得させられるからかな。 <p><グループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本論 1 は結論の根拠になっているよね。 ・筆者の主張は結論に書いてある、資源の効率化のことかな。 ・これ本論全部が結論の根拠になっていると思うな。 <p>○本当に説得力があるか、筆者の示した根拠を吟味する。</p> <p><グループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんか研究という言葉もあるから、1つ目の方法かもしれないな。 ・さっきの共通点について考えたから、2つ目の方法かも。 ・3つの方法、全部関係していると思うな。 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の構成の工夫に気づかせるために、第1時で触れた序論の問いと結論にずれがある事を想起させる。 ・クラスでの意見を共有するために、いくつかのグループの意見を発表する。 ・グループの意見が出そろったら、文章の構成に気づかせるために、「結論の根拠はどこにあるか」という発問を行う。 ◎自分の意見をもちやすくするために、もし、イースター島の事例がなかったらどうか、考えるよう伝える。 ◎筆者の文章の構成を理解しやすくするために、教員の Google Jamboard を使って可視化して示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の根拠の選定の意図を理解するために、教科書 p 133「根拠の吟味」で示されている3つの方法から、筆者はどの方法を使って説得力をもたせたのか、考えさせる。 ・次の単元の、「根拠の適切さを考えて意見文を書く」活動でも活用できるように、根拠のたせ方に意識を向けさせておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇思・判・表 C(1)エ</p> <p>文章の構成や論理の展開について、筆者の工夫を読み取ることができる。</p> <p>(ワークシート、発言)</p> </div>

<p>○「根拠を示すことの重要性とその工夫」について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠がある事で、意見の説得力が増すから。 <p>具体例を根拠として示すことで、相手に自分の意見を分かりやすく伝えることができる。</p> <p>○次時は筆者の主張に対して、自分の考えを文章にまとめることを伝え、学習の見通しをもたせる。</p>	<p>10分</p>	<p>◎本時の学習から、筆者は何のために根拠を示していたか、筆者は根拠を示すためにどんな工夫をしていたか、考えるように伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を生かして、根拠を吟味しながらまとめることを伝える。 次時への準備として、筆者の主張に対しての自分の考えをまとめておくように伝える。
---	------------	--

9 板書計画

<div data-bbox="443 842 1126 1173" style="border: 1px solid black; padding: 20px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <h1 style="text-align: center;">タブレット の画面</h1> </div>	<p>めあて 筆者はなぜ、イースター島の事例をあげたのか考 える。</p>
---	---